

2022年11月9日
住友生命保険相互会社

スミセイ「わが家の台所事情アンケート」 ～物価上昇が約9割の家庭に影響、多くの家庭が支出削減・節約～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、2022年の相次ぐ値上げラッシュが家計に与える影響について、アンケートを実施しました。

また、支出の一つとなる「教養費」に着目し、近年、国や企業が注目する「リカレント教育」や、お子さまの習い事の状況についての調査も行いました。

◆調査結果の概要（詳細は別紙参照）

○物価上昇の影響を受けている家庭は約9割。約9割の家庭で前年から生活費が増加しているものの、年収の増加は約3割にとどまる（3～7ページ）

2022年の物価上昇が家計に与える影響について、約9割（87.6%）が“ある”（「ある」「少しある」）と回答した。最も影響があった費目は「食費」で約6割（58.6%）を占め、以下は「水道光熱費」（25.9%）、「ガソリン代」（8.1%）が続いた。

生活費が前年から「増えた」との回答は約9割（88.0%）にのぼり、月平均で14,800円増となっている。これに対し、年収は「変わらない」（59.3%）、「減る」（10.5%）の計が約7割（69.8%）と、物価上昇に賃金上昇が伴っていないことがうかがえた。

○約8割が家計の支出削減・節約に取り組む。自身の小遣いの削減額は月平均で11,500円に（8～9ページ）

物価上昇の影響を受けているご家庭の約8割（79.2%）が、家計負担軽減のため支出の削減・節約を行っている。削減費目は「食費」が4割超（42.6%）と最多で、以下「旅行・レジャー費」（36.3%）、「被服費」（25.7%）、「自身の小遣い」（23.2%）と続いた。「自身の小遣い」の削減額は月平均で11,500円となっている。

○リカレント教育の実施率は約1割だが3割以上が関心を示す（10～12ページ）

リカレント教育の認知度は約4割（40.6%）で、「行っている・行ったことがある」は約1割（12.2%）、関心度は約3割（32.1%）となった。当調査において、支援制度があり、従業員に認知されている企業は約3割（29.0%）だったが、当該企業に所属する従業員の約7割（71.0%）が活用に向きな考えを持っている。

○物価上昇が子どもの習い事にも影響、約4割が削減またはやめた（13～14ページ）

お子さまが習い事をしている・していたという人に現在の実施状況をきいたところ、物価上昇の影響が約4割（「家計負担軽減のため削減した」（22.1%）と「家計負担軽減のためやめた」（16.0%）の計38.1%）に及んだ。

【 調査概要 】

1. 調査期間 : 2022年10月5日～10月7日
2. 調査方法 : インターネット応募による選択方式および自由記入方式
3. 調査対象 : 5,005人(全国の20代～60代・会社員(正規雇用の会社員・公務員)・既婚の男女)

調査対象者の内訳(人)

	20代	30代	40代	50代	60代	全体
男性	165	676	704	783	601	2,929
女性	312	612	574	442	136	2,076
合計	477	1,288	1,278	1,225	737	5,005

【 目次 】

1. 物価上昇による家計の変化
 - a. 物価上昇の家計への影響 3～4ページ
 - b. 生活費や貯蓄・資産投資金額の前年比較 5～6ページ
 - c. 年収の前年比較 7ページ
 - d. 家計負担軽減のために削減した費目 8～9ページ
2. リカレント教育の関心度・実施状況について
 - a. リカレント教育への関心度 10ページ
 - b. リカレント教育の実施状況と物価上昇による影響 11ページ
 - c. 企業におけるリカレント教育への支援とその活用度 12ページ
3. お子さまの習い事について
 - a. お子さまの習い事の状況と物価上昇による影響 13ページ
 - b. 年代別習い事ランキング 14ページ

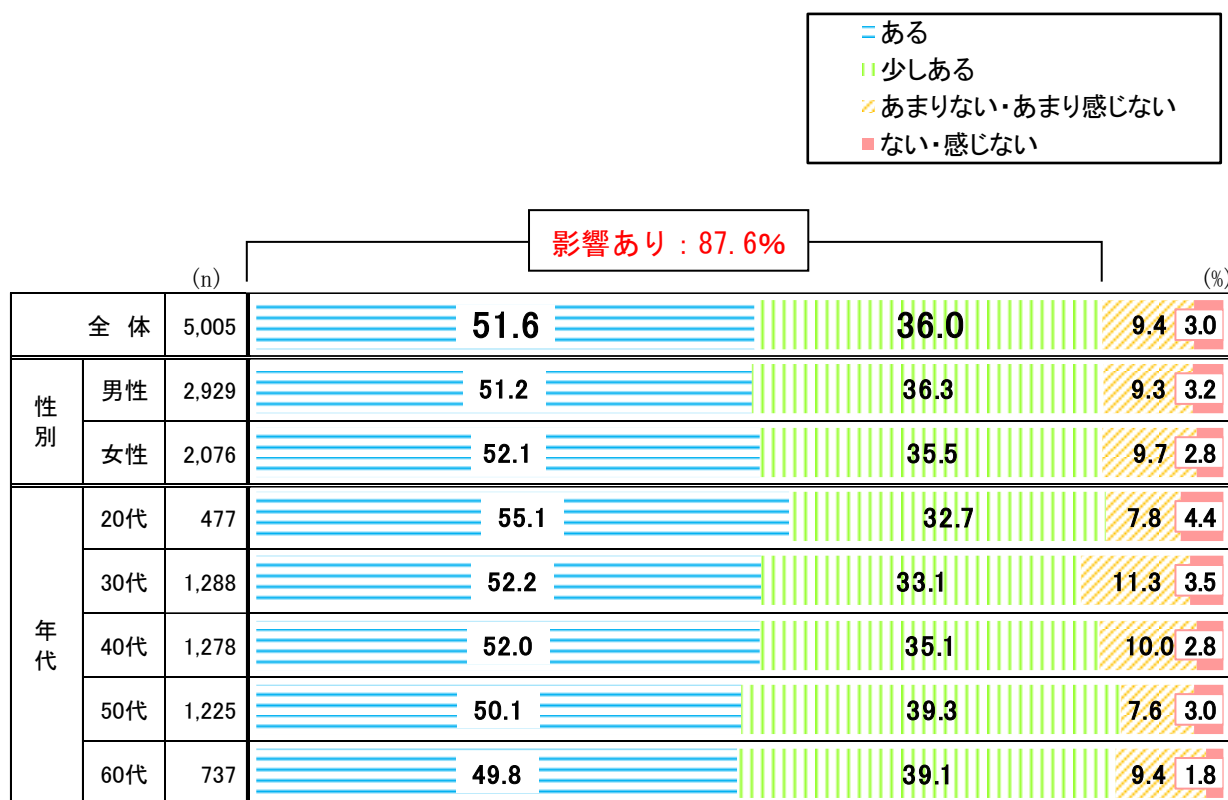
【 調査結果 】

1. 物価上昇による家計の変化

a. 物価上昇の家計への影響

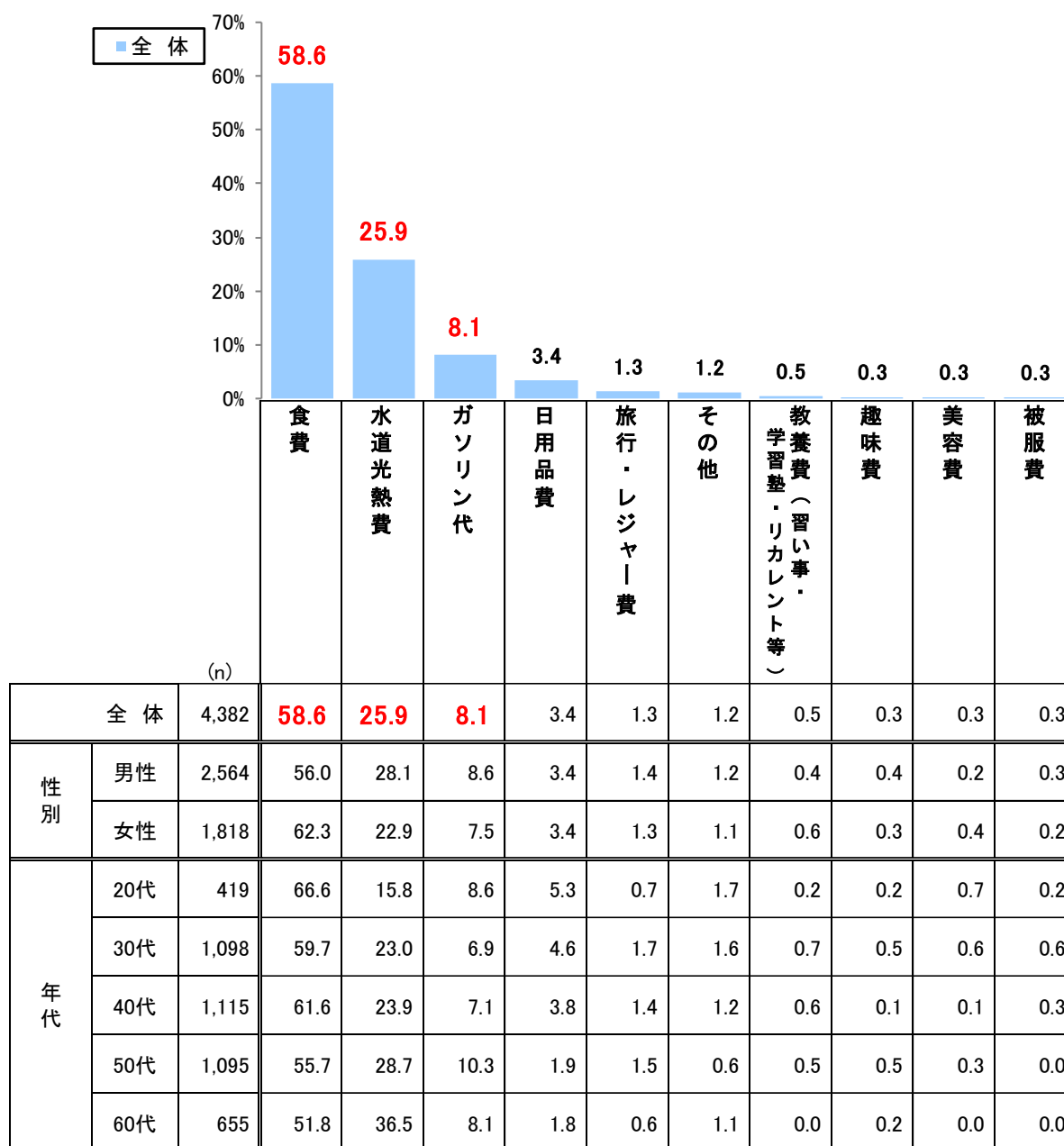
物価上昇の家計への影響については、87.6%が“ある”（「ある」（51.6%）、「少しある」（36.0%）の計）と回答し、最も影響があった費目は、性別・年代を問わず、高いものから順に「食費」（全体：58.6%）、「水道光熱費」（全体：25.9%）、「ガソリン代」（全体：8.1%）となりました。

◆物価上昇の家計への影響について教えてください。



◆最も影響があった費目をお答えください。

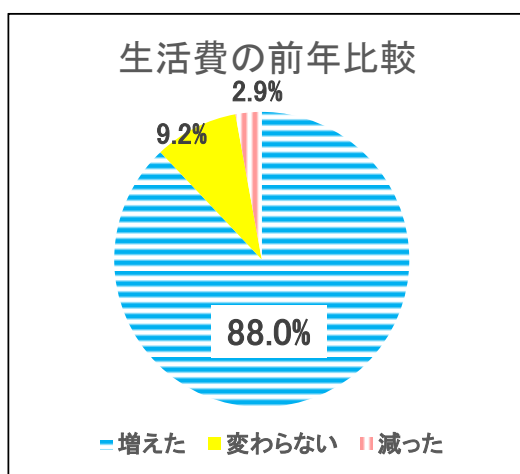
* 物価上昇の家計への影響が「ある」「少しある」と回答された方を対象



b. 生活費や貯蓄・資産投資金額の前年比較

生活費の増減については、「増えた」が約9割（88.0%）を占めました。増加額は月平均で14,800円となり、総務省「家計調査報告」による2021年10月の消費支出（312,658円）※1を基に換算すると、4.7%増という結果になりました※2。

- ◆前年と比較して、1カ月の生活費の増減はいかがですか。
前年との差額を教えてください。



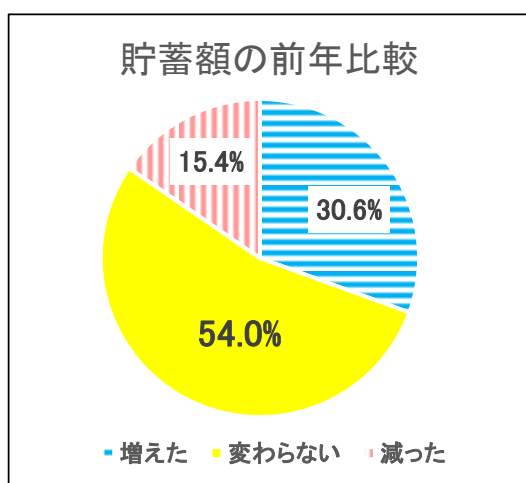
		(n)	(千円)
	全体	5,005	14.8
性別	男性	2,929	13.9
	女性	2,076	16.0
年代	20代	477	15.9
	30代	1,288	14.2
	40代	1,278	15.7
	50代	1,225	15.3
	60代	737	12.6

※1 出典：総務省「家計調査報告—2021年（令和3年）10月分—」中、1世帯当たり（2人以上の世帯）の消費支出のうち勤労者世帯。

※2 本調査対象は、会社員・既婚の男女であるため、総務省「家計調査報告」の調査対象と完全に一致しているものではない。

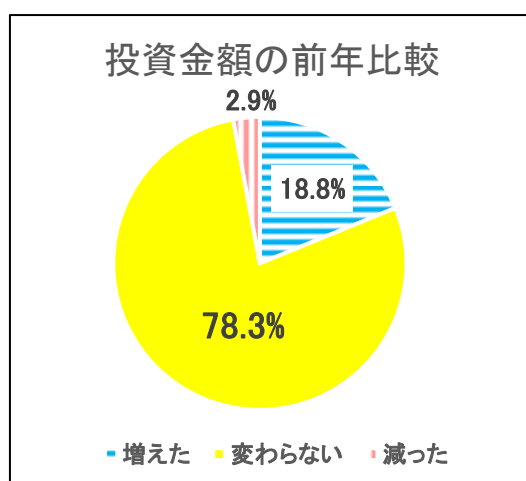
また、貯蓄額および投資金額の増減については、回答割合が高いものから順に「変わらない」（貯蓄額：54.0%・投資金額：78.3%）、「増えた」（貯蓄額：30.6%・投資金額：18.8%）となり、貯蓄額は月平均で5,800円増、投資金額は5,100円増となりました。生活費負担が増加する中でも、資産形成（貯蓄・投資）に回す金額に増加が見られました。

◆前年と比較して、1カ月の貯蓄額の増減はいかがですか。
前年との差額を教えてください。



		(n)	(千円)
全体		5,005	5.8
性別	男性	2,929	4.0
	女性	2,076	8.4
年代	20代	477	6.0
	30代	1,288	9.2
	40代	1,278	5.7
	50代	1,225	5.0
	60代	737	1.5

◆前年と比較して、1カ月の資産投資（iDeCo・NISA等）の増減はいかがですか。
前年との差額を教えてください。



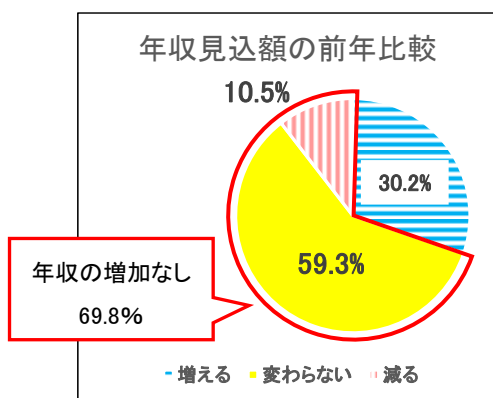
		(n)	(千円)
全体		5,005	5.1
性別	男性	2,929	4.7
	女性	2,076	5.6
年代	20代	477	3.9
	30代	1,288	9.1
	40代	1,278	3.7
	50代	1,225	4.8
	60代	737	1.7

c. 年収の前年比較

「変わらない」(59.3%)、「減る」(10.5%)の合計は約7割(69.8%)に達し、物価上昇が賃金上昇を伴っていないことがうかがえます。「変わらない」「減る」の合計は、男女別では女性(72.8%)が、年代別では40代以上(40代:70.0%、50代:75.1%、60代:78.2%)が70%超となりました。

物価上昇による年収アップの必要性については、67.9%が「感じる」と回答し、男女別では男性(70.0%)が強く感じているようです。また、年代別では、上記年収の前年比較にて「変わらない」「減る」との回答割合が多かった40代以上が、30代以下よりも高い数値になりました。

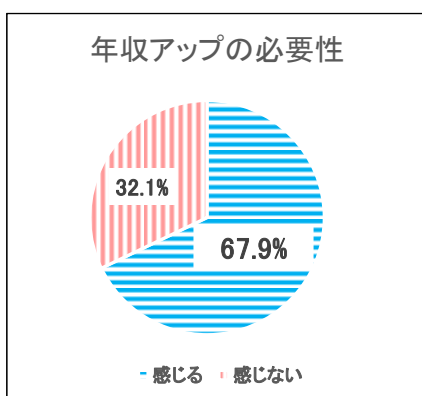
◆前年と比較して、ご自身の年収の増減はいかがですか。



	(n)	増える	変わらない+減る			
			変わらない	減る	合計	
全体	5,005	30.2%	69.8%	59.3%	10.5%	
性別	男性	2,929	32.4%	67.6%	56.9%	10.6%
	女性	2,076	27.2%	72.8%	62.5%	10.3%
年代	20代	477	38.2%	61.8%	52.0%	9.9%
	30代	1,288	37.5%	62.5%	53.1%	9.4%
	40代	1,278	30.0%	70.0%	61.3%	8.8%
	50代	1,225	24.9%	75.1%	63.4%	11.7%
	60代	737	21.8%	78.2%	64.3%	13.8%

◆物価上昇に伴い、ご自身の年収アップの必要性を感じますか。

* 物価上昇の家計への影響が「ある」「少しある」と回答された方を対象



	(n)	感じる	感じない
		割合	割合
全体	4,381	67.9%	32.1%
性別	男性	70.0%	30.0%
	女性	64.9%	35.1%
年代	20代	65.6%	34.4%
	30代	64.7%	35.3%
	40代	69.7%	30.3%
	50代	70.1%	29.9%
	60代	67.9%	32.1%

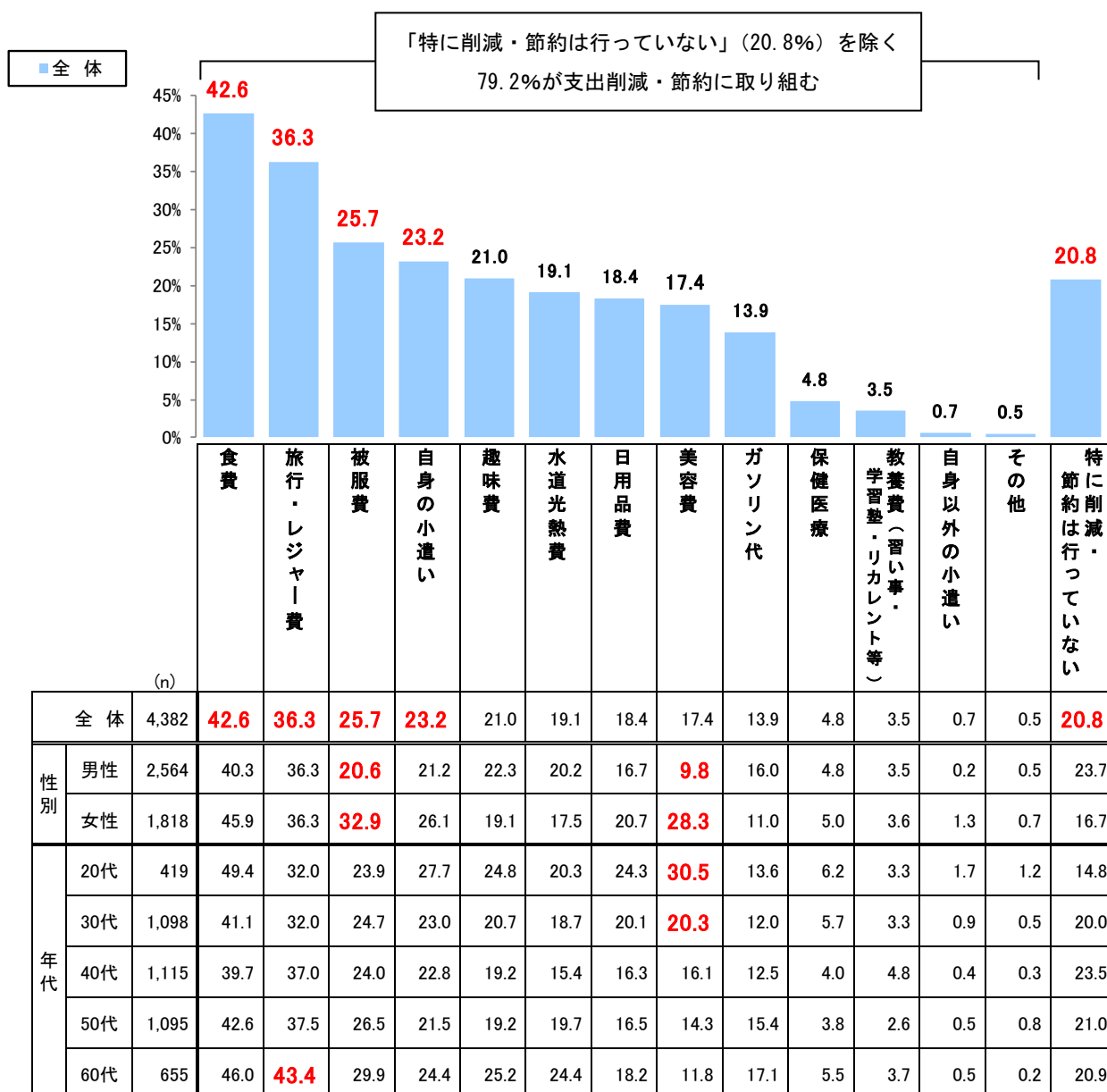
d. 家計負担軽減のために削減した費目

物価上昇の影響を受けているご家庭のうち、家計のやりくりのために「特に削減・節約は行っていない」は20.8%にとどまり、約8割（79.2%）が家計を切り詰めていることがわかります。削減費目として挙げたものは、多い順に「食費」（42.6%）、「旅行・レジャー費」（36.3%）、「被服費」（25.7%）、「自身の小遣い」（23.2%）でした。

男女別では、「被服費」「美容費」の差が目立ち、女性は男性より「被服費」で12.3pt、「美容費」で18.5pt高くなっています。年代別で見ると、「美容費」は20代（30.5%）・30代（20.3%）が、「旅行・レジャー費」は60代（43.4%）が他年代より高くなりました。

◆家計をやりくりするために削減した費目があればお答えください。（複数回答可）

* 物価上昇の家計への影響が「ある」「少しある」と回答された方を対象



なお、「自身の小遣い」の削減額は月平均で11,500円となり、特に50代の削減額は16,000円と多くなっています。削減後のお小遣いの平均は、女性は男性より7,700円低い17,000円で、年代別では30代（18,400円）と40代（18,700円）が2万円を切る金額になりました。

◆ 1カ月のお小遣いについて、削減前と削減後の金額を教えてください。

* 削減した費目に「自身の小遣い」と回答された方を対象

(千円)

	(n)	削減前	削減後	削減額	
全体	1,017	32.6	21.1	11.5	
性別	男性	544	35.7	24.7	11.0
	女性	473	29.1	17.0	12.1
年代	20代	116	32.3	21.9	10.4
	30代	253	29.5	18.4	11.1
	40代	253	25.9	18.7	7.2
	50代	235	40.3	24.3	16.0
	60代	160	37.1	23.9	13.2

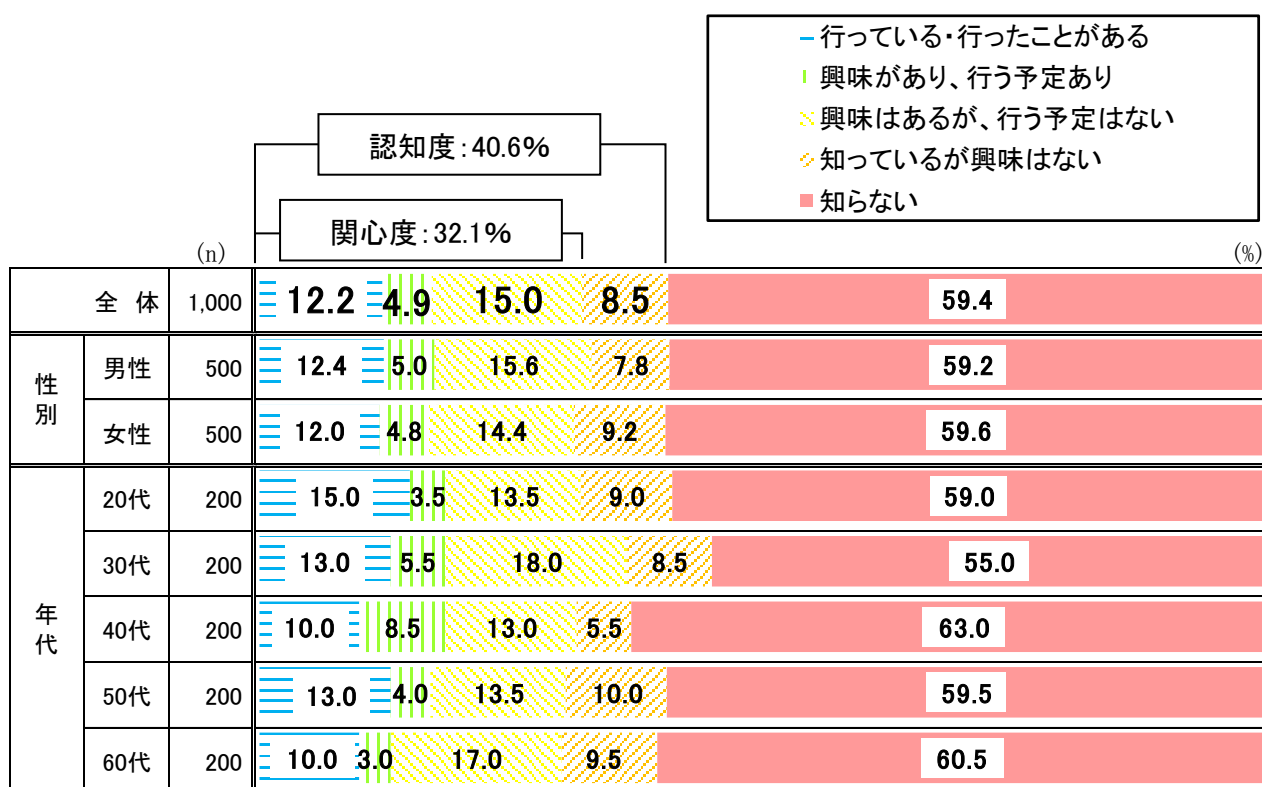
2. リカレント教育の関心度・実施状況について

※以下の設問にある「リカレント教育」は、学校教育からいったん離れて社会に出た後も、必要なタイミングでキャリアアップ・仕事のスキルアップに繋がる教育を受け、仕事と教育を繰り返すことを指し、趣味や興味のあることへの学習（生涯学習）とは異なるという前提でご回答いただいています。

a. リカレント教育への関心度

リカレント教育の認知度（「知らない」(59.4%)を除いた数値)は約4割(40.6%)でした。「行っている・行ったことがある」は12.2%のみですが、「興味があり、行う予定あり」(4.9%)と、「興味はあるが、行う予定はない」(15.0%)を合わせると32.1%が関心を持っていることがわかります。

◆あなたのリカレント教育への関心度について教えてください。

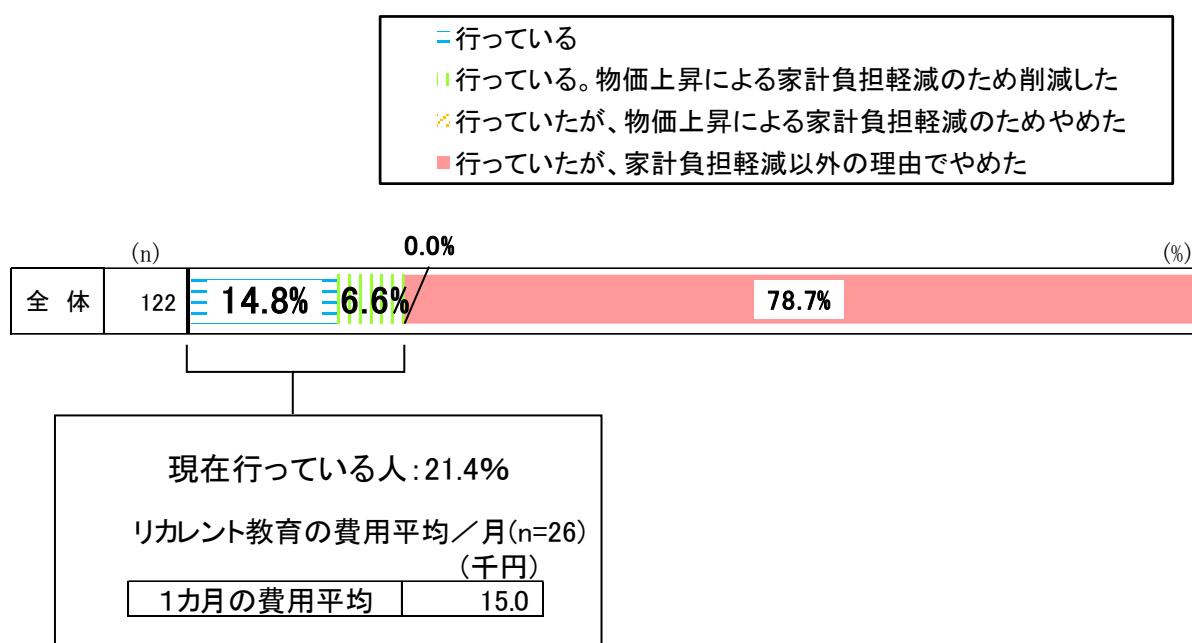


b. リカレント教育の実施状況と物価上昇による影響

リカレント教育の経験者のうち、「行っていたが、家計負担軽減のためやめた」という回答はありませんでした(0.0%)が、「家計負担軽減のため削減した」は6.6%でした。現在実施している人(「行っている」(14.8%)、「家計負担軽減のため削減した」(6.6%)の計)は21.4%で、費用の月平均は15,000円になっています。

◆あなたのリカレント教育の実施状況について教えてください。

* リカレント教育を行っている・行ったことがある方を対象

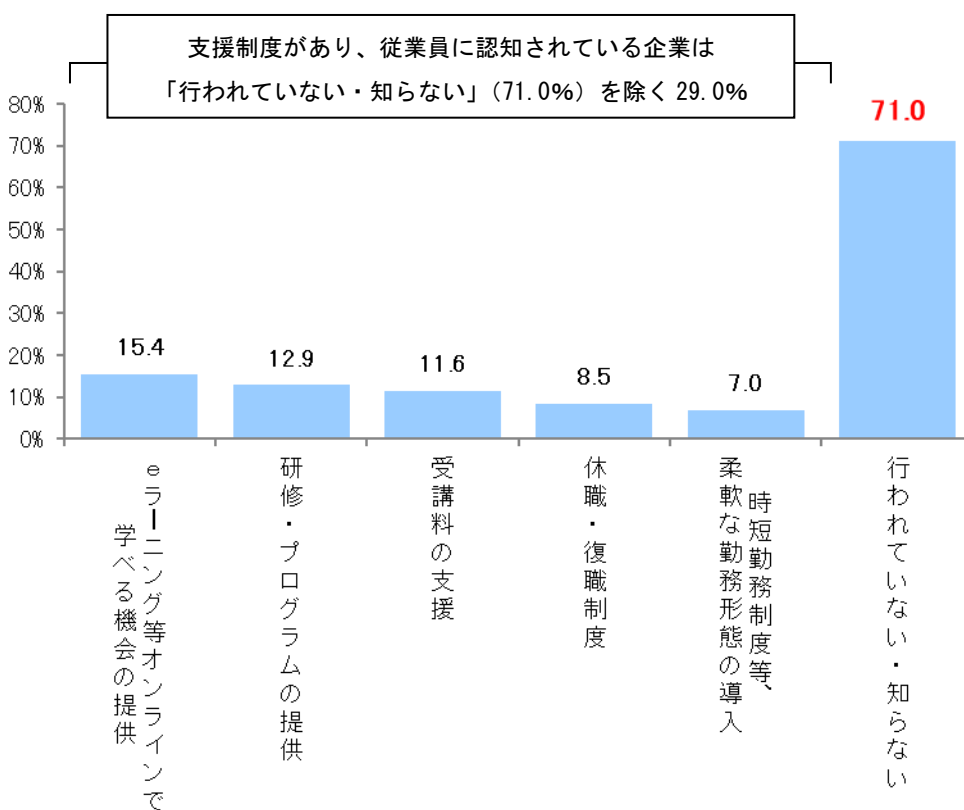


c. 企業におけるリカレント教育への支援とその活用度

職場におけるリカレント教育の支援について、71.0%が「行われていない・知らない」と回答し、この調査においては、支援制度があり、従業員に認知されている企業は約3割（29.0%）となりました。

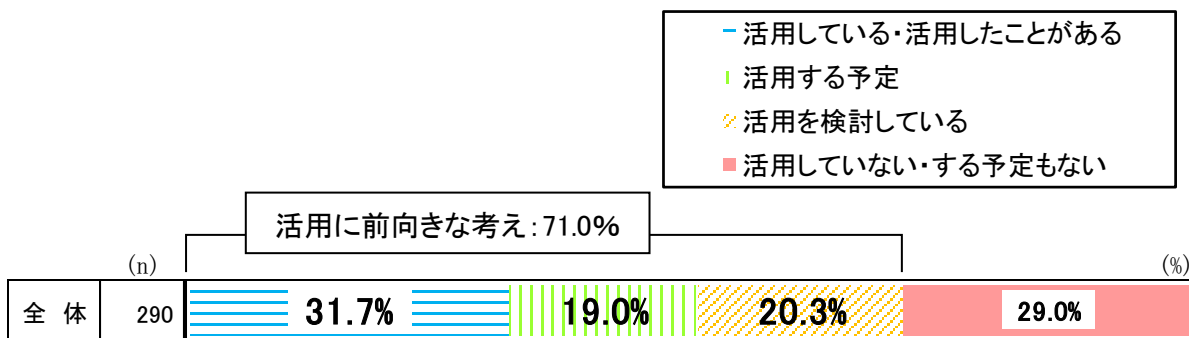
なお、支援制度の活用度（「活用している・活用したことがある」）は31.7%でしたが、「活用する予定」（19.0%）、「活用を検討している」（20.3%）を合わせると、71.0%が活用について前向きな考えを持っていることがわかります。

◆あなたの会社では、リカレント教育への支援が行われていますか。（複数回答可）



◆あなたはその支援制度を活用していますか。

*会社にてリカレント教育の支援が行われている方を対象



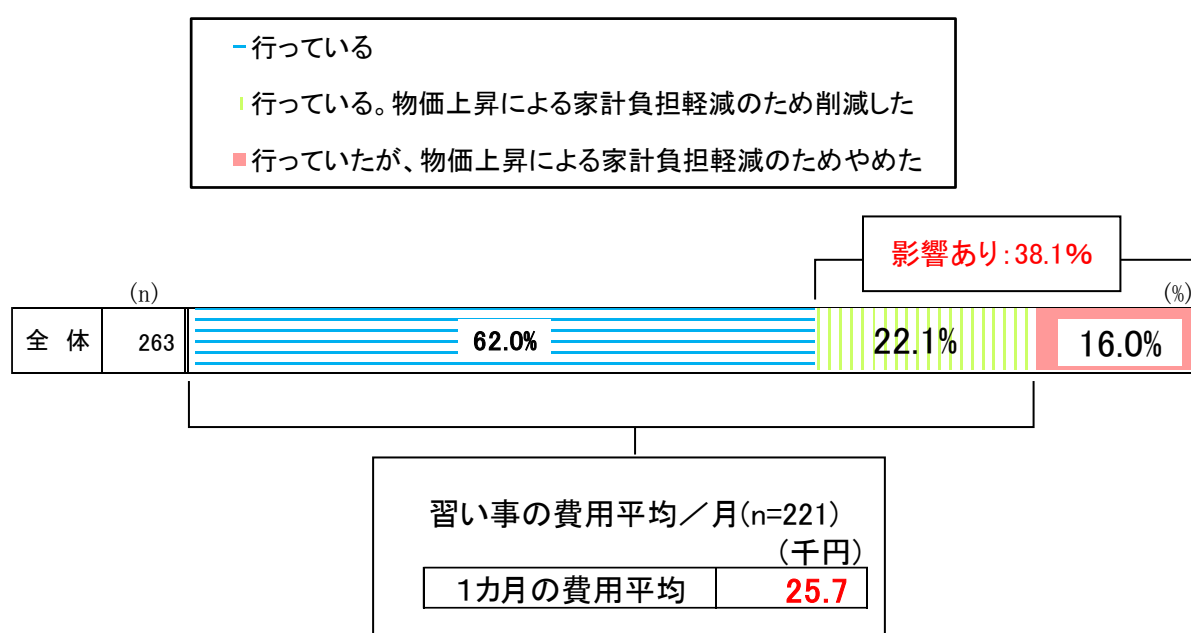
3. お子さまの習い事について

a. お子さまの習い事の状況と物価上昇による影響

お子さまが習い事をしている・していたという人に現在の実施状況をきいたところ、「家計負担軽減のため削減した」が22.1%、「家計負担軽減のためやめた」が16.0%と、物価上昇の影響が約4割（38.1%）に及んでいます。現在の一人当たりの費用の月平均は25,700円になっています。

◆お子さまの習い事の状況と、現在の一人当たりの1カ月の費用を教えてください。

* お子さまが習い事をしている・していたという方を対象



b. 年代別習い事ランキング

小学生未満の習い事としては、「英会話」「水泳」が人気です。「学習塾」は、小学生では2位（3割弱）、中学生では1位（6割超）と上昇していきませんが、小学生未満の女子においても4位（15.4%）にランクインしました。小学生未満から中学生まで常に5位以内に入ったものは、男子は「サッカー・フットサル」で、女子は「水泳」「英会話」「ピアノ」「学習塾」になりました。

◆お子さまの年代・性別ごとに習い事を教えてください。（複数回答可）

* お子さまが習い事をしている方を対象

【小学生未満】

位	男子(n=57)			位	女子(n=52)		
		n	%			n	%
1	英会話	23	40.4	1	水泳	15	28.8
2	水泳	14	24.6	2	英会話 ピアノ	12	23.1
3	そろばん	7	12.3				
4	体操	6	10.5	4	学習塾	8	15.4
5	サッカー・フットサル	5	8.8	5	体操	7	13.5

【小学生】

位	男子(n=67)			位	女子(n=55)		
		n	%			n	%
1	水泳	24	35.8	1	ピアノ	18	32.7
2	学習塾	20	29.9	2	学習塾 水泳	15	27.3
3	サッカー・フットサル	11	16.4				
4	ピアノ	9	13.4	4	英会話	12	21.8
5	書き方・書道	8	11.9	5	そろばん	10	18.2

【中学生】

位	男子(n=38)			位	女子(n=32)		
		n	%			n	%
1	学習塾	26	68.4	1	学習塾	20	62.5
2	英会話	9	23.7	2	ピアノ	9	28.1
3	サッカー・フットサル	6	15.8	3	英会話	6	18.8
4	プログラミング 水泳 武道	3	7.9	4	水泳 音楽教室(ピアノ以外)	4	12.5

以上